●プレゼンテーション

SMBG(血糖自己測定)を継続するために

-「面倒である」「痛み」に対する工夫 -

○今井　健嗣(テルモ㈱生活医療カンパニー糖尿病事業)

1978年に簡易型の血糖測定機器を用いた糖尿病患者自身による“血糖自己測定”（以下SMBG：Self Monitoring of Blood Glucose）の成果が発表され、以後DCCTなどによりその有用性が注目されている。わが国では、1986年より在宅自己注射指導管理料に“血糖測定指導加算”という形でSMBGが保険適用になったが、このことがSMBGの普及・拡大をより促進したと見られる。現在、SMBG実施者は約７０万人と推計されている。

しかしながら、ＳＭＢＧを様々な理由で中止・離脱していくケースも多く存在する。今回は中でも理由の多くにあげられる「面倒である」「痛み」という点に着目し、それらを少しでも軽減すべく弊社としての取り組みを紹介する。

「面倒である」に対する工夫として、弊社の血糖自己測定器「メディセーフミニ」は、試験紙が裏表なく直感的に本体に装着できる構造になっていることがあげられる。また、穿刺具「ファインタッチ」への針の取りつけも、まっすぐ押し込むだけの設計とし、測定準備の煩わしさを減じている。

「痛み」の軽減に向けた工夫として、穿刺針が中空構造になっていることと穿刺の深さ調節（0．3mm を加えた５段階）が挙げられる。

さらに、網膜症により失明した患者や脳梗塞から片麻痺になった患者に有用な「音声機能付血糖測定器（メディセーフボイス)」と「片手補助具」（販促品）にも触れ、そのような患者にも配慮した弊社の取り組みを紹介する。

また、血糖測定システムは院内でも使用される場面が多いことも鑑み、医療スタッフにとっての「安全」「安心」確保、具体的には針刺し事故・血液接触事故を防止するための弊社の開発姿勢について言及する。

これからも血糖測定を阻害する要因を少しでも低減できるよう、国産メーカーとして使用する方のご意見に耳を傾け、より快適なＳＭＢＧ環境の提供を目指していく所存である。

連絡先:06-6352-6251